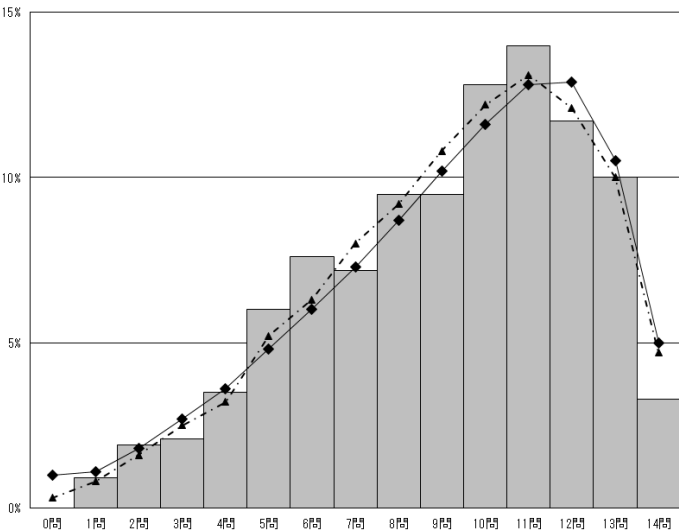


### 1 調査結果の分析

成果・課題が表れている項目を中心に

	問題番号	正答率(%)			県との差	全国との差	問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国				
全体	-	65.0	66.0	65.6	-1.0	-0.6	-	-
問題 成果が見られる	3三ア	67.5	65.6	65.2	+1.9	+2.3	【文章2】の中の__部アを、漢字を使って書き直す(ろくが)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
	3三イ	63.6	60.8	58.7	+2.6	+4.9	【文章2】の中の__部イを、漢字を使って書き直す(はんせい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
	3三ウ	70.8	69.7	67.0	+1.1	+3.7	丸山さんの【文章の下書き】の__部エを、漢字を使って書き直す(げんいん)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
問題 課題が見られる	1一	82.5	85.6	85.5	-3.1	-3.0	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する
	1四	42.0	45.8	47.7	-3.8	-5.7	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしなが 計画的に話し合い、自分の考えをまとめる
	2一(2)	64.1	67.8	70.6	-3.7	-6.5	「老人」が未来の「ぼく」と考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える

正答数分布グラフ



#### 【正答率の傾向から】

- ◇平均正答率は全国・県平均ともに下回っている。
- ◇平均正答数5問～6問(40～50%)の児童数が多い。
- ◇無解答率は、全ての問題で全国平均を下回る成果が見られ、県と同等である。
- ◇(問題3三)「知識・技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、どの項目も全国・県平均を上回っており、漢字を書く力が身につけている。
- ◇(問題1)「話すこと・聞くこと」の領域に関して互いの立場や意図を明確にしなが  
計画的に話し合ったり、それをもとに自分の考えをまとめたりすることに課題がある。

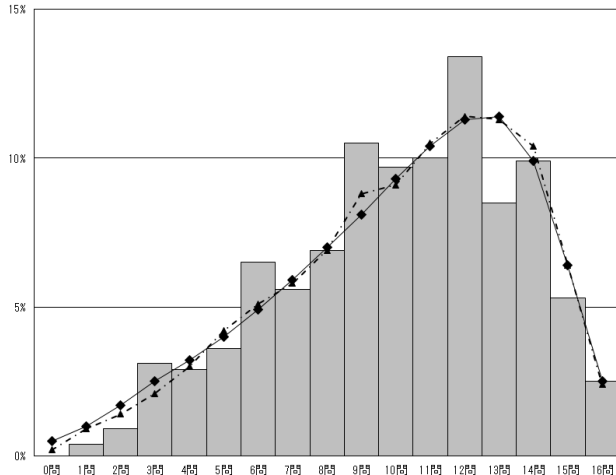
### 2 具体的な改善方策

- 「話すこと・聞くこと」の話し合いにおいて、iPadによる録音や録画を積極的に活用し、指導や評価に活かしていくことで、指導の効果を高める。また、話し合いの目的や方向性を明確にし、様々な視点から互いの意見を検討して自分の考えを整理したりまとめたりすることを大切に意識して単元を構成することが必要である。

### 1 調査結果の分析 成果・課題が表れている項目を中心に

	問題番号	正答率(%)			県との差	全国との差	問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国				
全体	-	63.0	64.0	63.2	-1.0	-0.2	-	-
成果が見られる問題	1(3)	81.8	78.8	76.0	+3.0	+5.8	カップケーキ7個分の値段を、 $1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる
	2(1)	76.4	72.1	71.1	+4.3	+5.3	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる
	2(3)	29.8	22.0	21.4	+7.8	+8.4	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している
課題が見られる問題	1(4)	29.8	32.9	34.8	-3.1	-5.0	$85 \times 21$ の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる
	3(3)	63.6	68.7	66.8	-5.1	-3.2	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる
	4(1)	42.9	49.5	48.8	-6.6	-5.9	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる

正答数分布グラフ



#### 【正答率の傾向から】

- ◇平均正答率は全国・県平均ともに下回っている。
- ◇無解答率は、ほぼ全ての問題で全国平均を下回る成果が見られ、県と同等である。
- ◇図形の意味や性質をもとに、論理的に考えて記述することに課題がある。
- ◇記述問題について県・全国平均より正答率が低い傾向がある。
- ◇目的に応じて数量の関係に着目し、数の処理のしかたを考えることに課題がある。

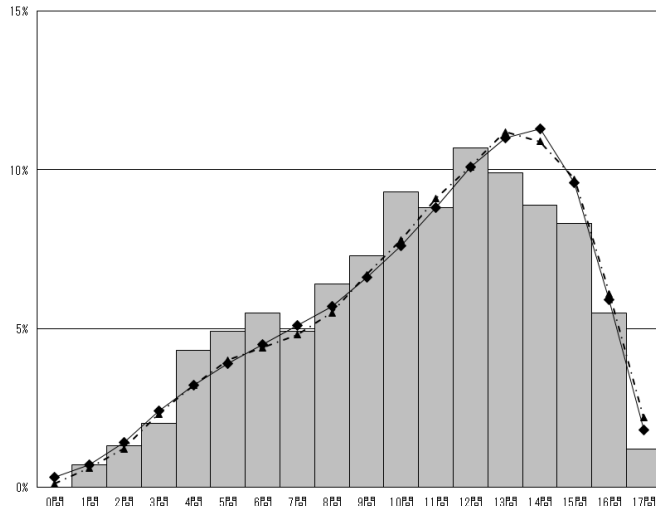
### 2 具体的な改善方策

- 具体的な場面を想定し、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして概算できるようにする。
- キーワードや図、表などを用いながら説明する活動（アウトプットする活動）を多く取り入れるとともに、説明が十分かどうか児童が相互に確認する活動を仕組む。
- 論理的に思考する過程を大切にするため、学習内容に応じて効果的にプログラミング学習を取り入れる。

### 1 調査結果の分析 成果・課題が表れている項目を中心に

	問題番号	正答率 (%)			県との差	全国との差	問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国				
全体	-	61.0	64.0	63.3	-3.0	-2.3	-	-
成果が見られる問題	3(1)	31.4	30.2	27.8	+1.2	+3.6	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している
課題が見られる問題	1(5)	59.1	62.9	65.5	-3.8	-6.4	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる
	2(1)	52.9	74.7	67.8	-21.8	-14.9	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している
	3(2)	69.7	72.7	74.4	-3.0	-4.7	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している

正答数分布グラフ



#### 【正答率の傾向から】

- ◇平均正答率は全国・県平均ともに下回っている。
- ◇無解答率は、ほぼ全ての問題で全国平均を下回る成果が見られ、県と同等である。
- ◇基本的な「知識・技能」が身につけていない傾向がみられる。(基本的な器具の名前を覚えることができていない。)
- ◇自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、問題を見出したり、自分の考えを持ったりすることに課題がある。

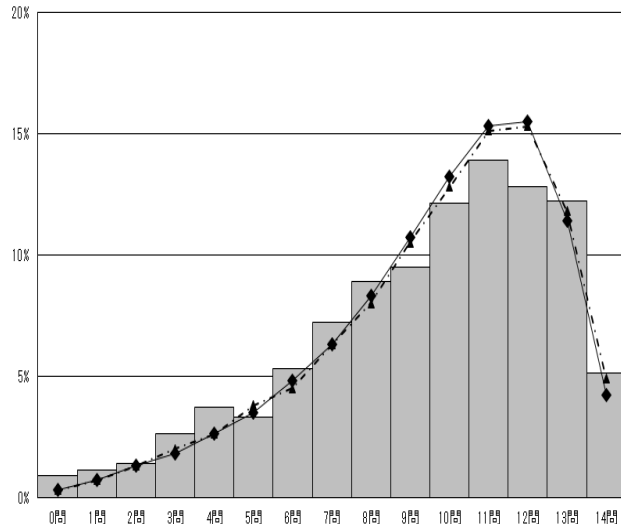
### 2 具体的な改善方策

- 実験や観察で扱う器具の名称や実験・観察の適切な記録の仕方などをキーワードを提示して、繰り返し使わせることで、基本的な「知識・技能」を身に付けるようにする。また、説明などにおいてアウトプットする時間を必ず取り、表現することで定着させる。
- 実験や観察においては、児童が見出した問題から予想や仮説を立てた上で課題解決的な学習を仕組んでいく授業の流れを意識する。

### 1 調査結果の分析 成果・課題が表れている項目を中心に

	問題番号	正答率(%)			県との差	全国との差	問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国				
全体	-	67.0	69.0	69.0	-2.0	-2.0	-	-
課題が見られる問題	1三	50.1	51.4	51.8	-1.3	-1.7	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す
	2三	45.5	47.9	46.5	-2.4	-1.0	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く
	3三	59.8	62.0	62.0	-2.2	-2.2	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える
	3一	47.4	51.1	52.5	-3.7	-5.1	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する
	4二	85.7	90.8	90.1	-5.1	-4.4	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する
	4三	77.7	81.4	81.1	-3.7	-3.4	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する

正答数分布グラフ



#### 【正答率の傾向から】

- ◇平均正答率は全国・県平均ともに下回っている。
- ◇無解答率は、全体的に全国・県平均を若干上回っており、課題である。
- ◇基本的な「知識・技能」が身につけていない傾向がみられる。(表現技法や行書の特徴など)
- ◇自分の考えが分かりやすく伝わるような話し方、書き方の工夫をすることに課題がある。

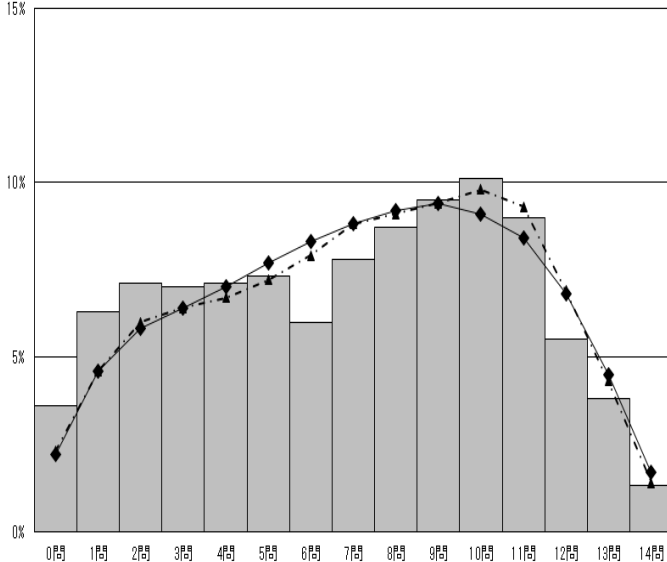
### 2 具体的な改善方策

- 国語の用語については、キーワードとして掲示することでいつも目に触れさせるとともに、用語を用いながら説明するなどの表現活動を適宜取り入れていく。
- 目的や相手に応じた語句を選んだり、話し方や言葉遣いなどを考える学習を効果的に仕組むとともに、iPadによる録音や録画を積極的に活用し、指導や評価に活かしていくことで、指導の効果を高める。

### 1 調査結果の分析 成果・課題が表れている項目を中心に

	問題番号	正答率 (%)			県との差	全国との差	問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国				
全体	-	49.0	52.0	51.4	-3.0	-2.4	-	-
成果が見られる問題	6(2)	51.8	50.2	48.7	+1.6	+3.1	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる
課題が見られる問題	1	62.2	71.4	52.2	-9.2	+10.0	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる
	5	78.9	82.1	83.3	-3.2	-4.4	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している
	7(1)	35.6	53.1	44.0	-6.5	-8.4	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる
	8(1)	45.0	53.1	54.6	-8.1	-9.6	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる
	9(2)	8.5	8.9	12.5	-0.4	-4.0	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が $30^\circ$ になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる

正答数分布グラフ



#### 【正答率の傾向から】

- ◇平均正答率は全国・県平均ともに下回っている。
- ◇無解答率は、全体的に全国・県平均と同等であるが、若干上回っている項目があり課題である。
- ◇基本的な「知識・技能」が身につけていない傾向がみられる。(確率や座標、素因数分解など)
- ◇筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

### 2 具体的な改善方策

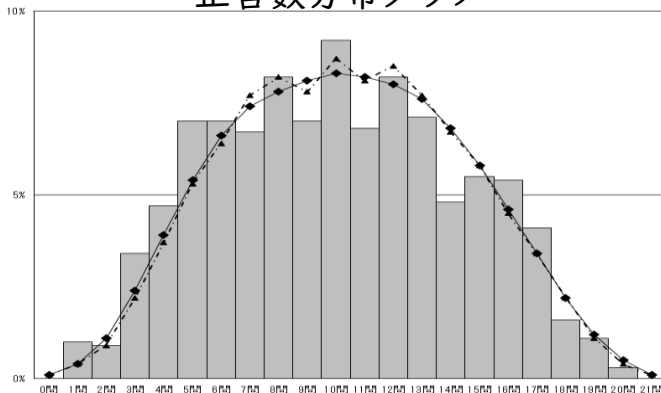
- 領域ごとに必要な基本的な知識や技能を身に付けさせる活動の時間を十分とり、補充学習や学び直しの時間に確実に定着させる。
- 数学用語について、キーワードとして掲示するとともに、用語を用いながら説明するなどの表現活動を適宜取り入れる。
- 分かっていることを整理したり、説明の基本形を用いて筋道立てて考えたりして説明する活動を十分取り入れるとともに、支援が必要な生徒についてはどの段階でつまづいているか把握し、支援・指導をしていく。



### 1 調査結果の分析 成果・課題が表れている項目を中心に

	問題番号	正答率(%)			県との差	全国との差	問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国				
全体	-	48.0	49.0	49.3	-1.0	-1.3	-	-
成果が見られる問題	1(1)	46.6	41.8	44.2	+4.8	+2.4	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる
	1(2)	75.7	79.9	78.5	-4.2	-2.8	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる
課題が見られる問題	4(1)	69.7	73.8	74.5	-4.1	-4.8	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる
	6(1)	45.7	50.6	48.0	-4.9	-2.3	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる
	6(3)	28.8	33.2	34.2	-4.4	-5.4	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる
	8(1)	50.9	52.8	55.2	-1.9	-4.3	アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる

正答数分布グラフ



#### 【正答率の傾向から】

- ◇平均正答率は全国・県平均ともに下回っている。
- ◇無解答率は、記述問題において全国・県平均より高い傾向にあり、課題である。
- ◇基本的な「知識・技能」を関連付けて理由を説明したり、実験や観察の結果をもとに課題に合った考察をすることに課題がある。

### 2 具体的な改善方策

- 基本的な知識の習得や科学的に表現する力をつけるため、いくつかの事実を関連付けて説明する活動を多く仕組む。
- 設定した課題に合った考察ができる学習場面を設定するとともに、考察した内容を吟味する活動を仕組む。

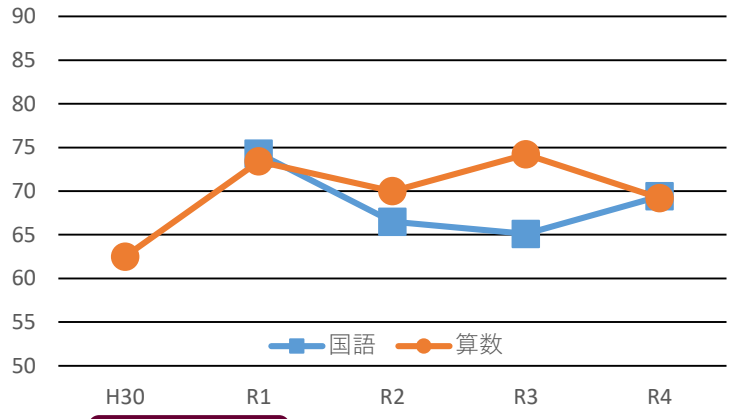
# 全国学調 中津市 質問紙調査結果の推移「勉強が好き」「授業が分かる」【H30～R4】

（肯定的回答割合）  
教科の勉強は好きですか。

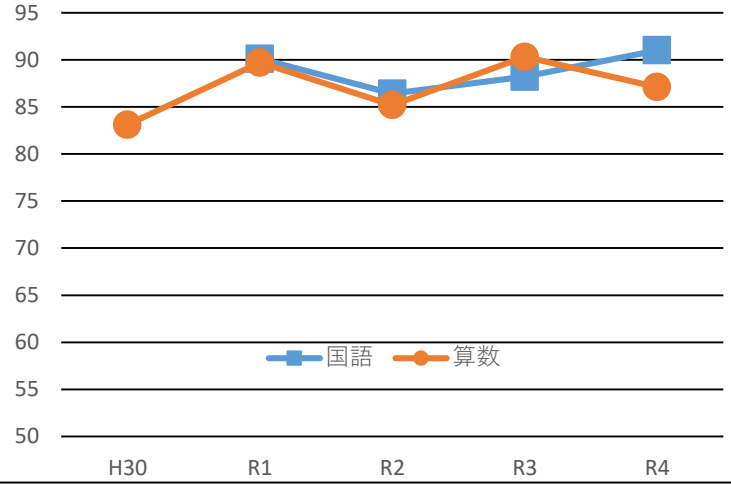
（肯定的回答割合）  
授業の内容はよくわかりますか。

平成30年の国語の調査はなし

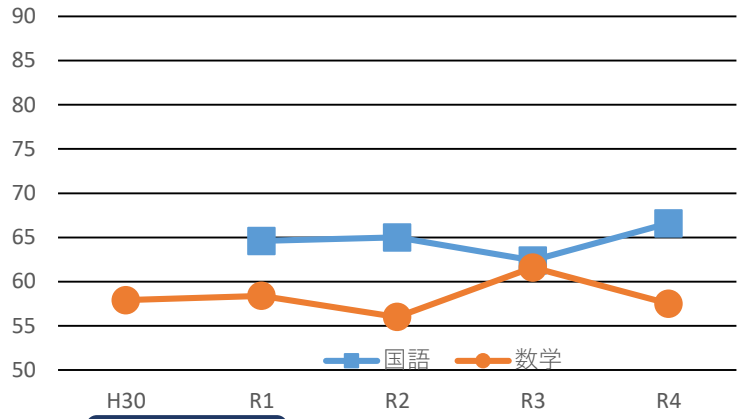
## 小学校



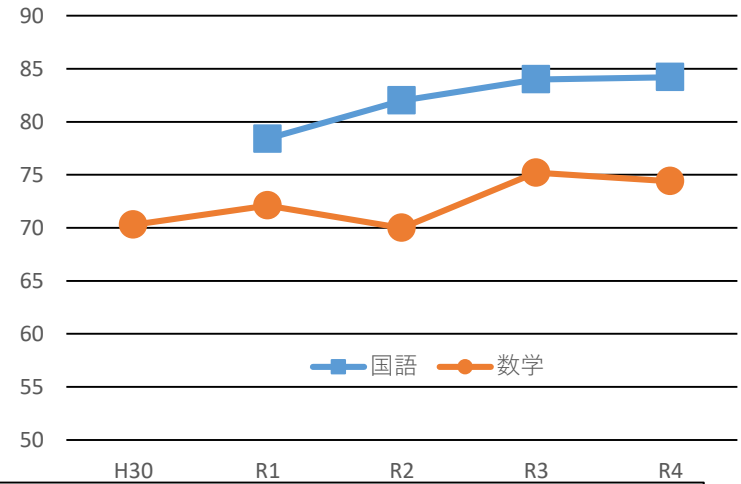
## 小学校



## 中学校



## 中学校



- 「教科の勉強は好きですか」の質問についての肯定的割合は、R3からR4にかけては、小・中ともに国語は増加、算数・数学は減少している。
- 「授業の内容はよくわかりますか」の質問についての肯定的回答割合においても、R3からR4にかけては、小・中ともに国語は増加、算数・数学は減少している。

# R4全国学調 質問紙調査結果から見える児童生徒の現状

## 調査結果から見える中津市の特徴的な項目

### 小学校

※( )は昨年度比

### 中学校

①将来の夢や目標を持っていますか。

全国	県	中津市	全国との差	県との差	全国	県	中津市	全国との差	県との差
79.8	78.7	77.8(-2.7)	-2.0	-0.9	67.3	68.5	69.0(-11.5)	+1.7	+0.5

②自分には、よいところがあると思う。

全国	県	中津市	全国との差	県との差	全国	県	中津市	全国との差	県との差
79.3	78.8	79.1(+2.2)	-0.2	+0.3	78.5	77.4	74.6(-2.3)	-3.9	-2.8

③学校に行くのは楽しいと思いますか。

全国	県	中津市	全国との差	県との差	全国	県	中津市	全国との差	県との差
85.4	85.2	86.3(-0.6)	+0.9	+1.1	82.9	84.0	88.3(+5.8)	+5.4	+4.3

④平日に、1日当たりテレビゲームどのくらいしたか。(2時間以上すると回答した児童生徒の割合)

全国	県	中津市	全国との差	県との差	全国	県	中津市	全国との差	県との差
50.2	51.0	58.6(+3.6)	+8.4	+7.6	50.3	44.2	55.7(-3.2)	+5.4	+11.5

⑤平日、1日当たりどのくらい携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしたか。(2時間以上すると回答した児童生徒の割合)

全国	県	中津市	全国との差	県との差	全国	県	中津市	全国との差	県との差
32.5	33.9	40.7(調査なし)	+8.2	+6.8	52.0	46.2	55.4(調査なし)	+3.4	+9.2

⑥学校の授業がある月曜日から金曜日の授業時間以外にどれくらいの時間勉強したか。(ほとんどしないと回答した児童生徒の割合)

全国	県	中津市	全国との差	県との差	全国	県	中津市	全国との差	県との差
4.2	3.7	5.3	+1.1	+1.6	4.9	1.6	2.1	-2.8	+0.5



# R4全国学調 質問紙調査結果から見える児童生徒の現状

## 小学校

## 中学校

⑦授業時間以外に平日、1日当たりどのくらい読書をするか。(全くしないと回答した児童生徒の割合)

全国	県	中津市	全国との差	県との差	全国	県	中津市	全国との差	県との差
26.3	25.9	29.1(+5.9)	+2.8	+3.2	39.0	46.3	42.2(-4.1)	+3.2	-4.1

⑧今までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。(週3回以上)

全国	県	中津市	全国との差	県との差	全国	県	中津市	全国との差	県との差
58.2	50.8	68.2	+10.0	+17.4	50.9	47.0	67.3	+16.4	+20.3

⑨授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(週3回以上)

全国	県	中津市	全国との差	県との差	全国	県	中津市	全国との差	県との差
43.9	38.8	54.2	+10.3	+15.4	37.2	33.0	51.8	+14.6	+18.8

⑩学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(週3回以上)

全国	県	中津市	全国との差	県との差	全国	県	中津市	全国との差	県との差
22.5	21.0	36.1	+13.6	+15.1	17.8	18.1	37.0	+19.2	+18.9

⑪自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(週3回以上)

全国	県	中津市	全国との差	県との差	全国	県	中津市	全国との差	県との差
21.7	20.5	32.5	+10.8	+12.0	15.0	15.8	34.3	+19.3	+18.5

## 2 中津市の児童生徒質問紙調査の結果をふまえて

- 「夢や目標」「自己肯定感」の項目では、肯定的な回答の割合が県・全国と比べて同等か高くなっている。(①②)
- 「学校に行くのが楽しい」と回答した割合が小・中とも全国・県と比べて高く、特に中学校では顕著である。(③)
- テレビゲームやスマホの利用時間が全国・県よりかなり長くなっており、勉強時間や読書時間は短い傾向にある。(④～⑦)
- ICTの活用においては、様々な場面で全国や県より活用が進んでいる。(⑧～⑪)

### I 調査結果の分析

【肯定的な回答の割合】

	番号	質問事項	中津市	大分県	全国	県との差	全国との差
成果が見られる質問	(13)	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	100	90.2	83.7	+9.8	+16.3
	(15-3)	ICTを活用した校務の効率化を通じて、学校からのお知らせ（学校通信等）は軽減しましたか	66.7	56.6	50.3	+10.1	+16.4
	(15-5)	ICTを活用した校務の効率化を通じて、教職員の書類作成等その他の事務は軽減しましたか	90.5	74.2	73.7	+16.3	+16.8
	(25)	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	100	85.6	83.8	+14.4	+16.2
	(26)	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	100	83.2	80.9	+16.8	+19.1
	(60)	調査対象学年の児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	80.9	62.3	61.9	+18.6	+19.0
	(61)	調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	76.1	42.7	39.9	+33.4	+36.2
(62)	教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	57.1	41.0	45.4	+16.1	+11.7	
課題が見られる質問	(46)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	71.4	81.1	84.3	-9.7	-12.9
	(50)	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	80.9	95.5	93.9	-14.6	-13.0

### 1 調査結果の分析

【肯定的な回答の割合】

	番号	質問事項	中津市	大分県	全国	県との差	全国との差
成果が見られる質問	(15-1)	ICTを活用した校務の効率化を通じて、生徒の出欠・遅刻に関する事務は軽減しましたか	80.0	53.0	59.9	+27.0	+20.1
	(15-2)	ICTを活用した校務の効率化を通じて、学校からのお知らせ(学校通信等)は軽減しましたか	90.0	54.6	62.0	+35.4	+28.0
	(59)	調査対象学年の生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	80.0	48.8	41.7	+31.2	+38.3
	(60)	教職員と調査対象学年の生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	70.0	51.3	44.1	+18.7	+25.9
	(61)	調査対象学年の生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	50.0	37.0	27.8	+13.0	+22.2
	(69)	令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	90.0	77.3	47.6	+12.7	+42.4
課題が見られる質問	(33)	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	80.0	94.2	89.6	-14.2	-9.6

### 2 中津市の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 教員が授業や学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たる体制ができている学校の割合が、昨年と同様高い傾向にある。今後も、悩みや困りを持った教職員に対して、情報交換や共有を図る場を設け、組織的に解決していく体制を整えることで、児童生徒が安心して学ぶ場を提供していく。
- ICTを活用した校務の効率化、授業での活用が進んでいる。今後は、ICTの活用自体が目的にならないように、つけるべき資質能力を明確にした効果的な活用ができるように、好事例の共有や推進校の取り組みの公開を行う。
- 「新大分スタンダード」に基づく主体的に学び考えを深める授業改善は進んでいるが、小学校においては、実生活における事象との関連を図った授業、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導などが不十分である。体験や経験したことが学びと結びつくような指導を各学校で計画的・組織的に取り組んでいく。

# 中津市の学力向上に向けた今後の取組

## 取組の重点

取組1 全職員で学力調査分析を行い、「つけるべき力」を明確にし、共有する。

取組2 「つけるべき力」のために、全職員による組織的で徹底した取り組みにする。

取組3 基礎基本・活用力定着の取組を計画的に行う。

### ◎小・中共通

#### ①「分析の目的」を共有する

・「つけるべき力を明らかにし子どもに力をつけるための分析である」という「分析の目的」を全職員で共有する。

#### ②調査問題を全員で解く。

・全教職員で問題を解く時間を持ち、調査問題の分析からも「つけるべき力」を明らかにする。

### 取組1 「つけるべき力」を明らかに

### ◎小・中共通

#### ①「短期集中講座」・「補充学習」・「家庭学習」を見直す。

・「短期集中講座」等が、分析後も同じ内容、同じ取組になっていないかを見直し、分析結果を生かした取り組みを、全職員で徹底する。

#### ②「短期集中講座」で「調査問題」を生かす。

・短期集中講座で調査問題のやり直しや、「小4・中1、県調査問題チャレンジ」「小5・中2、全国調査問題チャレンジ」を行い、「つけるべき力」がついているかを検証する。

#### ○小学校

eライブラリで「知識・技能」の問題、MEXCBTで「活用力」の問題や全国調査問題に取り組ませる。

#### ○中学校

eライブラリやE4Sで「知識・技能」の問題、MEXCBTや県データベースで「活用力」の問題や全国調査問題に取り組ませる。

### 取組2 「組織的な」「徹底した」取組を

### ◎小・中共通

#### ①計画的に繰り返した指導を行う。

長期記憶として定着させるため、同じ問題や類似問題に短期・中期・長期に何度も繰り返し取り組める指導計画、単元計画をたてる。

#### ②「見える化」する。

学力向上の取組を計画的に、継続的に行えるよう、4点セットや学力向上プランに位置付け、見える化する。

(教職員にも、子どもにも、日常的に意識できるように)

#### ○小学校

教科書や単元テスト(業者テスト)の「活用力問題」を疎かにせず、全児童に取り組ませ、評価する。

#### ○中学校

定期考査の「活用力問題」の質・量を見直し、教科主任と管理職が組織的に確認する。

### 取組3 「計画的に」「定着させる」取組を

年度が替わっても、教職員が替わっても、子どもが替わっても、必ず取り組み、常にどの学年・教科でも「偏差値50以上」の力を。